

オーストラリア／パース福島県人会 御中  
(会長 ストックトン亜紀子 様)

このたびは、かわいいカンガルーの人形付きの「心のこもったメッセージ」、そして「義捐金」をくださりまして、本当にありがとうございました。

本校は、県立の知的障害児の特別支援学校で、福島県浜通り（海岸部）のほぼ中央部にあたる「富岡町」にありました。

しかし、東日本大震災に続く原子力発電所の事故により、町からの避難を余儀なくされ、2011年度は、県内8か所の特別支援学校に分教室を開いて、児童生徒及び教職員ともどもそれぞれが避難した先で、分散して授業を行ってきました。児童生徒の中には、福島県外に避難した者も数多くいました。

2012年4月になって、富岡町から40km南のいわき市に、現在の仮設校舎が完成し、また1つの学校に集約することができました。

しかし、震災前には小学部から高等部まで全部で100名以上いた児童生徒が、30名ほどに減ってしまいました。

少なくなった児童生徒とプレハブ造りの仮設校舎のため、不自由なところも数多くありますが、それでも、児童生徒は毎日元気に学習活動に励んでいます。校長室の上は音楽室（プレイルーム）なのですが、今も、子どもたちの元気な足音が地鳴りのように響いて、床が抜けそうなくらいです（それがプレハブゆえの悩みでもありますが・・・笑）。

4月10日（木）に、林由美子さんたちが、メッセージと義捐金を本校に届けてくださいました。

その日はちょうど、中学部が「新入生歓迎会」を行っておりましたので、会の合間を縫って、受領式を実施いたしました。

その様子は、別添の写真のとおりです。

カンガルー付きのメッセージは、中学部の生徒が代表として受け取り、現在は、本校玄関前に飾っております。もうしばらくしましたら、それぞれの家庭に持ち帰って、児童生徒の御両親に、皆様のメッセージを届けたいと考えております。

また、義捐金につきましては、校長が受領し、その場では林さんに対して御礼を述べさせていただきました。ここで改めまして、県人会の皆様には感謝を申し上げます。

いただいた義捐金は、事務的な手続きとして、いったん、本校の児童生徒の学

習活動を支援している団体である「福島県立富岡養護学校後援会」が収入し、児童生徒の活動のために支出し役立ていくことにしております。具体的には、児童生徒が他校との交流活動や校外活動に出かける際の交通費などに使わせていただくことで、仮設校舎で学習に不自由なところもある本校の児童生徒の学習活動を充実させることができると考えております。

本年度の終わりには、そうした活動の結果も含めて、改めて、本校の近況などをお知らせしたいと考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

本校は、まだ富岡町に帰る見通しのまったく立たない状況ではありますが、今の現在の地で、できることを精一杯してまいりたいと考えております。

本当に、このたびは、本校のために御支援をいただきまして、ありがとうございました。遠い国からも、本校のこと、本校の児童生徒及びその親のことを気にかけてくださっている方々がいらっしゃることを知ることができ、大変心強く感じております。

今後とも、離れてはおりますが、本校のことを見守り気にかけていただければ、と思います。

誠に略儀ながら、書面をもって御礼とさせていただきます。

2014年4月14日

福島県立富岡養護学校長 野 誠子